

2022 年度ちばSSKプロジェクト等に関する取り組み報告書

2023 年 4 月 18 日

*数値は 2023 年 3 月 20 日時点

1. 報告

生活協同組合コープみらいの 2022 年度「ちばSSKプロジェクト等に関する取り組みの年間計画」に基づく、ちばSSKプロジェクトに関する活動状況を報告します。

2. 2022 年度計画のまとめ

生活協同組合コープみらいは、商品の宅配など日々の業務と組合員の活動を通して、高齢者の見守りをはじめとする「ちばSSKプロジェクト」の取り組みに協力しました。

I 高齢者の見守り

(1) 県内の全市町村と締結している高齢者の見守り協定に基づき、コープデリ宅配・店舗事業の中で異変を発見した際に、市区町村や警察等へ通報します。

▶2022 年度に宅配事業と店舗事業において、業務中に異変などを発見し、通報した件数は 75 件（宅配 67 件、店舗 8 件）でした。

【見守り事例】

組合員（独居女性：86 歳）宅で、玄関の中からかすかに声が聞こえ呼びかけたところ、鍵を壊して入ってきて欲しいと言われました。知人である隣の家の方とともに庭から家に入り玄関先で倒れていた組合員を救護しました。前日の夕方から玄関先で身動きが取れない状態だったようで、直ぐに救急車の手配をしました。

▶コープみらいの移動店舗ふれあい便では、袖ヶ浦市にあるミニコープ蔵波店を拠点に、市原市、木更津市、君津市の買い物が困難な地域や高齢化の進んだ団地、高齢者施設等 54 か所の停留所を週 1 回巡回し、高齢者の買い物を支援しました。

(2) 各自自治体が開催する高齢者の見守りに関する会議に参加します。

▶新地域支援事業に関する会議

- ・四街道市たすけあい連絡会
- ・市川市地域ケア推進会議

▶高齢者見守り等に関する会議

- ・千葉市孤独死防止通報制度連絡会議（Zoom 参加）
- ・松戸市高齢者等の見守り活動に関する協定締結事業者の定例会（活動実績報告）
- ・習志野市高齢者見守り事業者ネットワーク会議（活動実績報告）
- ・一宮町地域支援ネットワーク会議（会場参加）

II 「ちばSSKプロジェクト」

- (1) 「ちばSSKプロジェクト」の施策を周知するために、情報紙「ちばインフォメーション」（県内35万部発行）等の広報媒体の中で、「ちばSSKプロジェクト」について紹介します。
- ▶ 「ちばインフォメーション」8月22日号に、「ちばSSKプロジェクト」の紹介とともに、離れて暮らすご家族などへコープみらいの配達情報をお知らせする「コープデリ宅配のお届け確認メール」について掲載しました（添付資料①）。

III 認知症対策

- (1) 職員や組合員、地域の方を対象に、認知症サポーター養成研修を実施します。
- ▶ コープみらいでは、2009年度より採用時研修の中で認知症サポーター養成講座を実施しています。また、各事業所の責任者が認知症サポーター養成の講習ができるように講座を受け、各事業所で講習を行なっています。認知症に対する知識と理解を持って、地域における見守り活動を進めています。オンライン講座を実施し、新たに17人のサポーターを養成しました。
 - ▶ 組合員活動でも多古町地域包括支援センターや松戸市馬橋地域包括支援センターの協力のもと認知症サポーター養成講座を開催し、のべ28人が参加しました。

IV 高齢者の生きがい、健康、仲間づくり

- (1) 組合員と地域の方が気軽に参加できる“地域に開かれた笑顔あふれる居場所”「みらいひろば」を県内各地で開催し、高齢者も含め多世代間の交流を進めます。
- ▶ 感染症対策を行いながら年間でのべ663会場で開催し、3,440人が参加しました。地域の居場所としてつながりづくりを大切にし、参加者の想いや暮らしに寄り添いながら、新しい参加者を迎え入れたり、新しい会場でも開設しました。食品の試食（黙食推奨）や調理を再開する会場も増え、交流が広がりました。

【みらいひろばでの事例】

木更津市のコープルーム木更津で開催しているみらいひろばでは、1月に参加者の一人が講師となってリフレッシュストレッチ（体ほぐし体操）を行いました。「いつも使わない筋肉を伸ばせて身体がとても軽くなりました」「自分では気づいていない体のクセを指摘していただいたので普段から姿勢や歩き方に注意しようと思いました」などの感想がありました。さまざまな年代の方が参加しているみらいひろばで、育休中でお子さんと一緒に参加された方は「大人の人と話ができて息抜きの場となっています」、年配の方からは「若い方と話せて気付きや刺激があって楽しい」と感想が寄せられています。

- (2) 組合員と地域の方のグループ活動を応援する「地域クラブ」の制度を通して、高齢者の生きがい、健康、仲間づくりを応援します。
- ▶ 「地域クラブ」の登録数は全体で830件（全世代含む）となり、高齢者も含め食・健康・福祉などをテーマに生き生きと活動しています。また、高齢者のくらしをサポート

トする活動も活発に行なわれています。

【地域クラブの事例】

地域クラブ「ピッピこども食堂」は、2019年の台風被害をきっかけに地域でのつながりづくりの大切さに気付いた高齢者のグループで活動を開始した子ども食堂です。「食を通して地域の皆さんと手をつなぎ、困ったことがあれば話を聞き、人々との交流を支えていきたい」と活動しています。開催会場である公民館もと相談し、メニューはカレーで定着させることで活動を覚えてもらう工夫をしています。利用者からは「こども食堂をきっかけにみんなとおしゃべりができて楽しい」と感想が寄せられています。

(3) 食育プログラムやエコプログラムを、老人クラブなど高齢者向けに実施します。

▶感染症防止対策を行ったうえでの実開催や、オンラインを活用した講座を実施することで、食育プログラムを4会場93人、防災・減災プログラムを5会場60人、エコプログラムを1会場7人に実施しました。

(4) 自治体の進める「生活支援体制整備事業」への貢献を目的に、一層・二層の協議体への参加、地域包括ケアシステムにおける地域コミュニティへの参画や社会福祉協議会との協働を進めます。

▶第一層・第二層協議体への参加は、「2. 各自治体が開催する高齢者の見守りに関する会議に参加します。」の報告に記載したとおりです。

▶コロナ禍で困難を強いられている生活困窮者の支援のため2022年3月より1年間を通し、食品等支援を行っている白井市・八街市・佐倉市・君津市・成田市・市川市・千葉市の社会福祉協議会へ合計12,899.3kgの千葉県産米を寄贈しました。

V 高齢者の安全、安心

(1) 千葉県くらし安全推進課と連携し、情報紙「ちばインフォメーション」に高齢者の消費者被害防止に向けた啓発記事を掲載します。

▶「ちばインフォメーション」に、「消費者被害防止」「交通安全運動」等に関する啓発記事やイベント等の情報を計9回掲載しました（添付資料②）

▶「みらいひろば」の参加者向けに配布する通信にて「成年年齢引き下げと消費者被害防止」について掲載し、家族への注意喚起を呼びかけました（添付資料③）。

▶ちばし消費者応援団への登録から消費者被害の情報の提供を行ないました。

以上